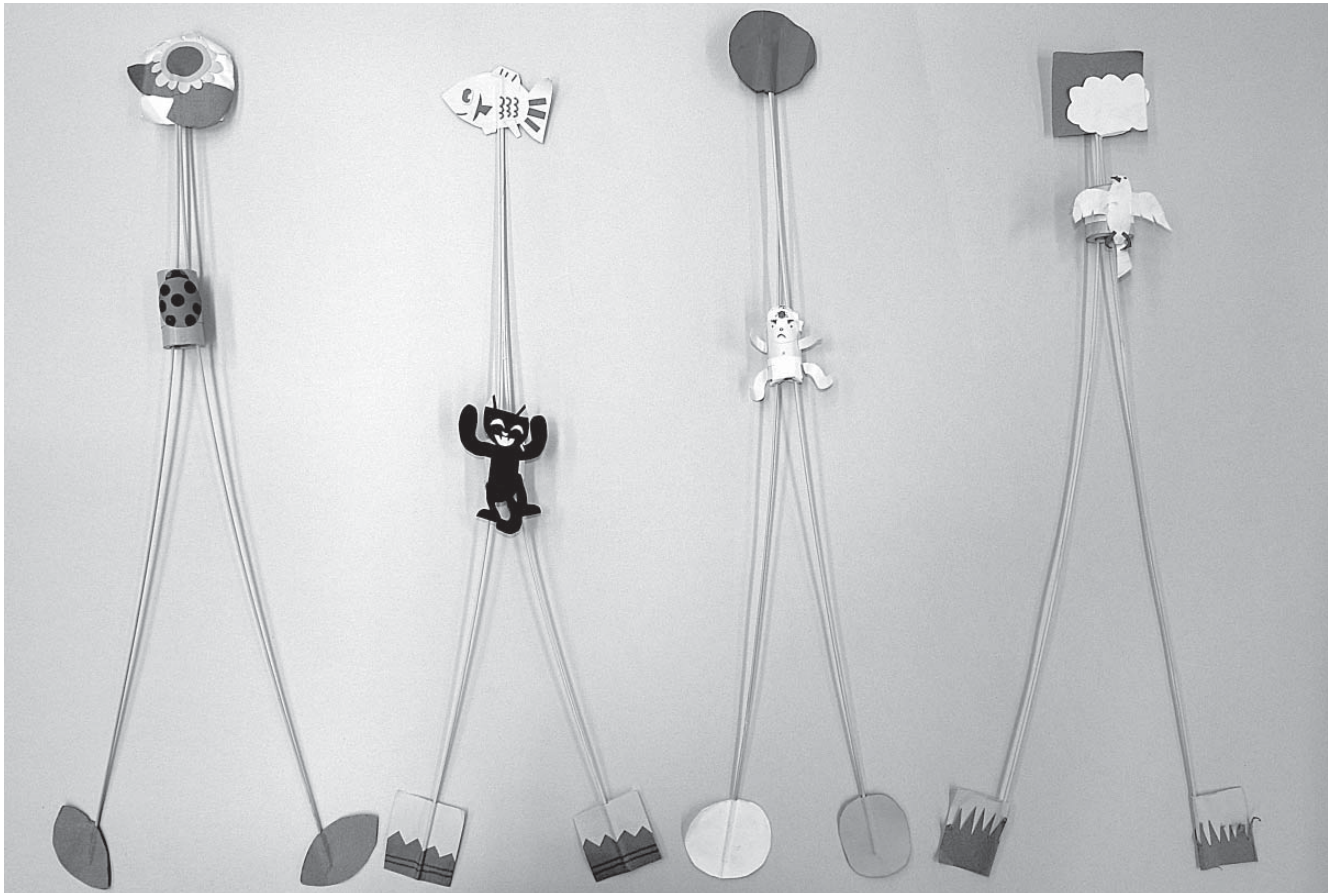


竹と造形 「竹のぼり」

竹は、私たちの生活のなかで、さまざまな道具（ざるやかごなどの容器）やおもちゃなどとして使われてきました。しかし科学が進歩し、合成樹脂などで作ったものが普及し、竹製品はその姿を消していきました。

アジア地域に生息する竹は、他に類をみない素晴らしい特性をそなえています。扇作りなどで使われる竹ひごと、輪切りにしたしの竹を使った新しい動くおもちゃ「竹のぼり」を紹介します。



〈竹〉の性質を生かして……

子どもの造形活動では、〈紙〉や〈土〉や〈木〉などの素材のなかから一つの素材に絞り込んで、その素材の使い方や特性などを追いつめて造形活動を展開しようとする、活動の幅が狭くなり、表現がかたくなることしばしばあります。ところが、素材を混ぜ合わせて使用すると、思わぬ展開があり、その結果、素材のよさが強調されることがあります。竹の特性を生かし、紙でいろどりを添えた動くおもちゃに仕立てた「竹のぼり」を紹介します。

〈竹〉は、軽くて、弾力性があり、強いなどの特性を持

っています。形状は筒状になっていて、それだけでも驚異です。このような特性を持つ素材は他にはありません。孟宗竹などは、輪切りにしただけで簡単な器になります。弾力性に富むので、曲げて椅子などにすることもできます。

子どもの造形活動で、〈竹〉の特性にふれることができるのが「竹ひご」です。木の細い棒ならば、曲げればすぐにも折れてしましますが、「竹ひご」の場合は縦に繊維が走っているので、バネのようにになります。目を見張るばかりの復元力があり、簡単には折れません。「曲げても、もとの形にもどる」という〈竹（ひご）〉の特性は、このプログラムの特徴になっています。ほかに、〈竹〉の筒状の形状も使い、動くおもちゃになっています。

木のようにあり草のようである〈竹〉は、「しなる」「かたい」「筒状」「われる」「さける」など、独特の性質もっています。身の回りにある竹でできた物を探すと、ざる、かご、ひしゃく、串、茶せん、物干し竿、うちわ、筆、楽器などさまざまです。これらのどれもが竹の性質を生かして形作られています。

竹を素材にしたおもちゃも、水鉄砲、風車、トンボのやじろべえ、とんだりはねたり、鳥笛、へび、竹馬などがあります。あげれば、きりがありません。私たちの祖先が、

竹を使って作ってきたものを見直して、その構造や機構を使った新しいおもちゃも考えられます。

竹は、ささ竹も含めると500種以上あるといわれています。成長も早く、たけのこから3年ほどで成長し、種類によっては1日に1mも伸びるものもあるといわれます。今は少なくなりましたが、都市部でも少し郊外に行けば、まだまだ竹林はあります。竹皮、竹、ささ竹の葉、など、すべてが材料となります。竹は古くからある、新しい造形素材と言えるでしょう。

□「竹のぼり」作りで使う道具□

- ①のこぎり
- ②紙やすり
- ③はさみ
- ④のり

□「竹のぼり」の材料□

- ①ラシャ紙、薄い色紙（カラベ）
- ②竹ひご（1.8mm×45cm）2本
- ③しの竹（直径2cm くらい×3cm）1個
- ④和紙

□作り方□

①しの竹を
2～3cm くらいの
長さに切ります。



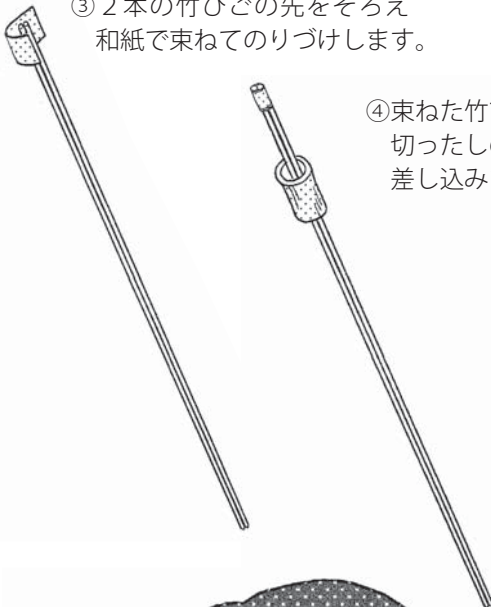
イラスト：横須賀ヨシユキ

※竹を長く切りすぎたり
短く切りすぎると
できあがった時に竹がひっかかり
うまく上がっていきません。

②紙やすりを使って
切った竹の切り口と
本体の表面をみがきます。



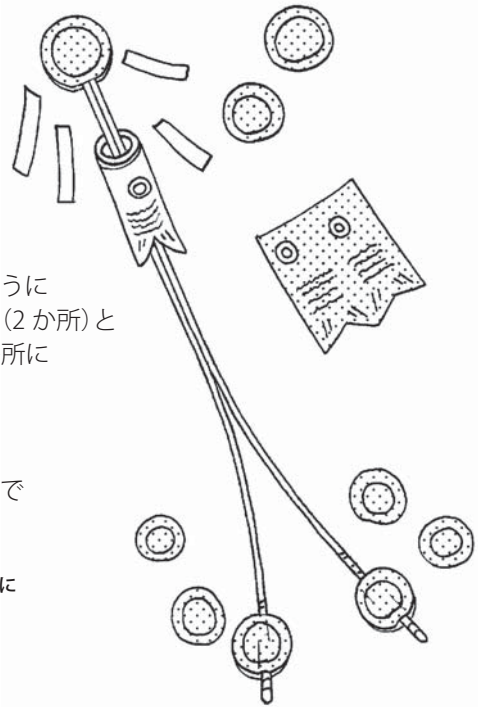
③2本の竹ひごの先をそろえ
和紙で束ねてのりづけします。



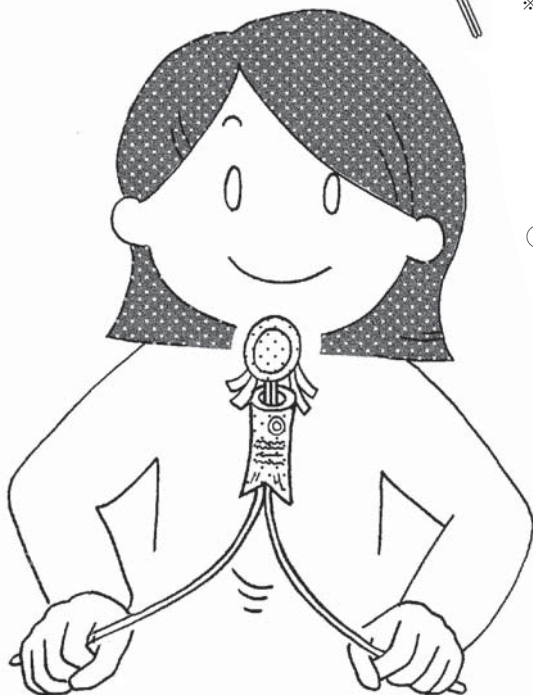
④束ねた竹ひごに
切ったしの竹を
差し込みます。

⑤しの竹が抜け落ちたり
飛び出したりしないように
竹ひごのもう一方の端(2か所)と
束ねたところの計3か所に
ラシャ紙などで
止めの飾りと
持ち手を付けます。
しの竹にラシャ紙などで
飾りつけをします。

※止め飾りは
しの竹が抜け落ちないように
しの竹の外径より
少し大きめにします。



⑥2本の竹ひごの先の持ち手を両手で持って
ゆっくりと左右に開くように
竹ひごをしならせると
しの竹がゆっくりと
上にのぼっていきます。



※最初のうちは、竹ひごが真っ直ぐなので、左右に開こうとしても“しの竹”がひっかって、上にのぼっていきません。
※強く一度に開こうとすると、竹ひごが折れることがあります。
※あわてずに、何度もゆっくりと竹ひごを左右に開くと、少しずつしなるようになり、表面も滑りやすくなって、しの竹もスムーズにのぼりはじめます。
※しの竹の飾りは、上下するもの（ロケット、鳥、こいのぼりなど）をイメージしましょう。
※竹ひごを束ねたところに、止め飾りをつけなければ、しの竹を飛ばすおもちゃにもなりません。